
コスモス

ちいこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コスモス

【Nコード】

N3766D

【作者名】

ちいこ

【あらすじ】

病院の近くの花屋さん。そこには一輪の華がひっそりとたたずんでいた。きれいな瞳と愛着のある性格に魅せられて、荻^{おぎ}巣^{すい}鈴^{りん}はお店を手伝い始める……。年の差7歳。

1、はじめり（前書き）

初投稿です！！

張り切っていますが、いつも空回りなちいこですので（汗）なにとぞ読みにくいところがあるかもしれませんがご了承ください……。
みなさんのお暇つぶしになれば幸いです。

1、はじまり

世間って、なんでこんなに複雑なんだろう。
もつと自由に生きてもいいんじゃないかって、思いたくなる。

敬子が入院してっというから、私は急いで市の病院に駆け込んだ。
大学の頃からの友達で、よく飲みにも行っていたし、つい最近には
2人で韓国旅行に行った仲だった。

またどんな理由での入院なのか、不安を覚えた。

しかし、病室に駆け込めば、上半身を起こし、ベッドに座っている
敬子がいた。

安堵の息が漏れる。

「敬子……」

「ああ、鈴ちゃん。どつたの」

「『どつたの』じゃないわよ……。あんたが入院したっというか
ら急いで……」

「すみません」

男の人の声がした。もちろん声の主は誰だかわかっている。

敬子の彼氏の、優人さんだった。

「僕が大げさな電話しちゃったから」

「ああ、いえ、そんな。気にしないでください」

「ちよつとお、あたしと優人では態度違うじゃない」

敬子の不機嫌そうな声も、いつも通りで安心した。

「ちよつと疲れが溜まってただけだよ」

敬子の仕事は新聞記者。自分ではまだまだ未熟者って言ってるけれど、過労で倒れたところを見ると、結構忙しいらしい。

残業も日常になっちゃうなんて、私には考えられないね。

「じゃあ、また明日も来るわ」

「うん。ごめんね、なんか」

「ううん。じゃ」

ひらひらと片手を振り、わたしは敬子の病室を出た。

一応「明日も」って言ったけど、反対に迷惑かな。

ふとした疑問。

しかしそれさえも、病院を出てすぐ傍にあつた花屋さんを見て、私は決心した。

そうだ、なんか花とか持つて行ったらいいじゃん。

小さな、少しほの暗い照明で、おしゃれな花屋さんに目を惹かれた。外はもう暗くなっていて、時計を見ると7時を回っていた。

ちよつと見てくか……。

何気ない思いつきだった。

別にこの時、まっすぐ家路に帰っていたって不思議ではなかった。

また明日来ようって、タクシーを呼んだっておかしくなかった。

なのに。

この時間を私は後悔することになる。

虚しい、哀しい結末なんて、見たくないのに。

1、はじまり（後書き）

まだ始まってないですよ、何も。

あのー、これからですので、

どうぞよかったら続きにお付き合ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3766d/>

コスモス

2011年1月16日02時20分発行